

## 「プレートテクトニクス」とパネル作りの日々

河村 幸男<sup>1)</sup>

2003年の地質情報展で、僕の役どころは展示全般のとりまとめ。今回は静岡ということで、地震国and火山国「日本」の中でも、東海地震やら富士山噴火やらと世間を騒がす「プレート」を主役にしなきゃ始まらないところです。所内でプレートテクトニクスというと、他の実行委員が指名する高橋雅紀さんに、プレートのブースをお願いしようとしたのですが、「今年はどうにも忙しく、協力したいのは山々だけど・・・」。でもアドバイスはしてくれるというので、それなら、「私がやっちゃいましょう(時間はまだあるし!)」と、軽く始めたのは5月半ば。まずはシナリオ、「全世界的プレート事情とプレートテクトニクスの歴史から入って、太平洋プレートの説明、日本周辺のプレート運動、静岡地方のプレート運動」とズームアップしていこう!

高橋さんから借りた論文やらインターネットやらから資料を集め、まずはテキストを書き上げます。普段、パネル作成用のテキスト原稿を研究者の皆さんにお願いするときには、「長すぎる! 難しすぎる!」とイチャモンをつけてますが、短く的確に書くのは難しいもんです(もとより長くても的確に書けるような知識もないし)。どうにかこうにか、第一案を書き上げ、近所の方々に見ていただき、だんだんそれらしくなったところで、高橋さんにも見てもらいました。

それから、必要な図面を用意し始めます。一部は、昨年のコーナーからの使い回しです。去年は何も考えずにパネル化してましたが、「この地磁気が正逆を繰り返してる図は大西洋のだ」。太平洋版にしなくちゃ! 実は大西洋ではほぼ中央にプレートの境があって東西に広がっていく感じがつかみやすいのですが、太平洋の中央海嶺はかなりアメリカ



写真1 常に人影まばらで、ゆっくりと見ることができる(笑)、プレートテクトニクスブース。

よりで・・・まっいいか。イラストはちょっと抽象的ですが、せめてデータはリアルなものと、国際地質協力室長のお仕事も忙しい中、元海洋地質部の石原丈実さんに中央海嶺付近の見やすい地磁気データをイラストレータファイルに出力していただきました。

このころになると、他のブースのパネル原稿も集まり始め、当たり前のように僕の周りにはてんやわんやになってきました。いくら「このまま使って良いよ」といわれても、汚い図面はトレスしなきゃ気が済まないし。いちいち凝ったデザインにしたって、それでお客さんが増えるわけは無いんだけど、やっぱりやるだけやっとなないと、協力してくれる研究者の皆さんにも申し訳ないし、来てくれたお客さんには、せめて僕らの本気を伝えないと、僕らがやっている意味がなくなっちゃうんで。

あとからあとから出てくるパネル原稿をレイアウトしながら、その隙にプレートのパネルをまとめてい

1) 産総研 地質調査情報部 地質情報展実行委員会(展示担当)

キーワード: プレートテクトニクス, 普及イベント, 地質情報展



写真2 海洋ブース担当者から得た隙を見て、得意げに自作の採泥器模型でマンガン団塊を拾って見せる筆者。



写真4 プレートテクトニクスの展示パネルの前で、熱心にアンケートに記入する参加者。



写真3 プレートのパネルの前で、NHK静岡のキャスターからインタビューを受ける、湯浅地質情報部長。このシーンは放送されませんでした。

きます。「日本列島とプレート運動の歴史」イラストのあとに、静岡地方の複雑な地質とプレート運動の関係を描ければ良かったんですが、時間だけではなく能力的にも全く無理みたいでした。すべての図面がとりあえず仕上がり、火山ブースの担当者で、今回のコアメンバーでもある下司さんと最終チェックをして、パネル原稿完成です。ホントはカラーウレタンででっかい、大陸分裂ジグゾー積木を作ったんですが断念しました。のこり半月で、まだ海洋ブース用の「採泥グラブの模型」が半分ほどしかできてなかったんです(最終的に、こちらは完成して、会場でもウソみたいにうまくマンガン団塊を拾って見せてました)。

これらの間にも、できあがったパネル原稿は、流れ作業よろしく、我がイベントチームのメンバーによって、プロッタ出力→ラミネート→パネル貼りのプロセスをスムーズに進められていたので、最終的に180×90cmのスチロールパネル160枚を使用した展示パネルの作成も、締め切り間際のパニックに陥ることなく順調に完了しました。

体験コーナーや映像を使った他のブースに比べて、地味で、文字が多く鬱陶しいイメージの「プレート」のブースですが、開催当日、会場に来てくれた高橋さんからは「良くできてる」と褒めていただき、教育関係のお客様数人からは、印刷物は手に入らないかと問い合わせをいただきました。立ち止まる方も少なめに見えた当ブースでしたが、アンケートを見るとそれなりに関心をいただき(実はアンケート記入機の真ん前がこのパネルだったんですが)、密かに喜んでいます。

「プレートテクトニクス」はもちろん、すべてのブースで使用した展示パネルは、地質調査総合センターのウェブページに公開しています。ちょっと文字が見にくいサイズですが、関心をお持ちの方はどうぞ一度ご覧下さい。当日(特に最終日は大雨の中を)、会場を訪れてくださった皆さま、本当にありがとうございました。

KAWAMURA Yukio (2004): "Plate Tectonics Booth" and Our Event Season on 2003.

<受付: 2003年12月1日>